

番号	31 - 20	申請者	看護師 高野 智子
<p>【審査申請課題】</p> <p>ローテーション方式の内視鏡室勤務における手術室看護師のストレス</p>			
<p>【審査課題の概要】</p> <p>近年、内視鏡検査の発展は著しく、内視鏡の用途自体が検査に限らず治療や手術にまで拡大し高度・複雑化しており内視鏡業務に携わる看護師は高度な看護技術はもとより、医師との連携をとり、研鑽を積んでいくことが不可欠となっている。</p> <p>A病院では、地域の基幹病院として二次救急も担っており、多くの合併症を持つ高齢者や鎮静下での内視鏡検査がほとんどであり、時間外内視鏡検査や治療も行われている。内視鏡検査に携わる看護師は、内視鏡だけでなく、手術室、血管造影室・救急外来での業務を行っている。その中で内視鏡専任看護師1名と手術室看護師20名の内18名がローテーション方式で携わっている(内視鏡技師有資格者4名)。内視鏡室にて看護師2人で従事しており、業務が繁雑の中で医師やスタッフ間のコミュニケーションエラーに伴うインシデントも少なくない。また、看護師の内視鏡経験値にばらつきがあるため知識・技術の差がうまれ、内視鏡業務に戸惑う場面もみられている。看護師のストレスに対する研究は行われているが、A病院のようにローテーション方式で内視鏡業務にあたる看護師のストレスに対する研究は少ない。今回、内視鏡業務にあたる看護師にどのようなストレスがあるのかを明らかにすることで、スタッフのストレスの軽減を図り働きやすい環境作りにつなげることができると考え、看護研究として取り組みたいと考えた。</p>			
審査結果	承認 (令和1年9月24日)		